

【実践報告】

教職実践演習（中・高、栄養）の報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科	教授	笹原豊造
人間福祉学科	教授	菅井直也
初等教育学科	准教授	白石崇人
人間栄養学科	講師	塩田良子

0 本演習の方針

教職実践演習は「教職課程の履修の全体を通じて身につけるべき資質能力を最終的に形成し、その確認を行うための総合実践」として位置づけられる。この演習では、「教員として求められる4つの事項として、①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解に関する事項、④教科等の指導力に関する事項」について研修を深めることを目的とする。

この目的を達成するために、「演習(指導案の作成や模擬授業・場面指導の実施等)や事例研究、グループ討議等を適切に組み合わせる実施することや、教職経験者を含めた複数の教員の協力方式により実施すること」などが求められている。

1 活動スケジュールおよび活動場所（231教室）

日程	テーマ	担当教員
9月29日	ガイダンス ①授業のねらい・計画・評価など ②各担当者の授業概要と事前事後学修など	全教員
10月2日	特別支援教育の今日的課題Ⅰ～幼児と低学年児童の場合～ 大講義室 レポート提出	古田（講師）
10月16日	教育時事問題（1） 教育の時事問題に関して、調査し発表、質疑応答	笹原
10月23日	特別支援教育の今日的課題Ⅱ～高学年と中学生の場合～ 大講義室 レポート提出	古田（講師）
10月30日	教育時事問題（2）	笹原
11月6日	教育時事問題（3）	笹原
11月13日	教育時事問題（4）	笹原
11月20日	教育時事問題のまとめ ①戦後教育史を概観して ②新学習指導要領が目指すもの	菅井、笹原、塩田
11月27日	道徳教育のワークショップ ～情報モラル教育・いじめに関する事例についてディスカッション～	白石
12月4日	食育関連模擬授業～学校給食をめぐる諸課題～	塩田
12月11日	保護者・地域対応のワークショップ～クレーム対応講義、校長・担任・保護者・ 観察者に分かれてロールプレイング～	白石

12月18日	英語関連模擬授業～早期英語教育をめぐる諸課題～	笹原
1月8日	学級づくり関連模擬授業（1）	菅井
1月15日	学級づくり関連模擬授業（2）	菅井
1月22日	まとめ「私の目指す教師像」 ～これまでの授業を踏まえて、目指すべき教師像を発表～	菅井

2 活動の概要

（1）ガイダンス

○活動のねらいおよび実際

本演習が実施される目的や意義について、到達目標で示されている4つの項目に関連付けて説明した。また、本演習は4年生後期に履修し、大学での学修の総まとめとしての位置付けであることを確認した。学級づくりのHR指導案の作成及び模擬授業・場面指導の実施などの演習、事例研究、グループ討議等を行うことも合わせて確認した。

本来であれば、多岐に及ぶ項目について演習を設定することが望ましい。例えば、ICTの活用、学級通信の作成、教育法規への理解など取り組むべき項目は多数挙げられる。しかし、これまでの実施から、教育に関する歴史認識の欠如、教育に関する時事問題への関心の薄さなどの課題が挙げられている。教師にとって喫緊の課題であるいじめや体罰などを議論する際に、教育に関する諸課題に関する基礎知識の共有が必要である。このことを踏まえ、今年度も教育時事問題について、調査し議論することを、本演習の大きな柱とした。

（2）特別支援教育の今日的課題

○活動のねらいおよび実際

「特別支援教育の今日的課題Ⅰ～幼児と低学年児童の場合」と「特別支援教育の今日的課題Ⅱ～高学年と中学生の場合」の演題で、今年度も古田寿子氏の講義を受講した。本講義は、日々特別支援教育を実践している教師の体験を知る貴重な機会である。

講義で扱われた主な内容は次の通りである。「発達障害とは」、「主な発達障害」、「発達障害支援法の第2条」、「教育虐待とは?」、「障害者の権利に関する条約」、「合理的配慮とは」、「合理的配慮をしないこと」、「インクルーシブ教育と合理的配慮」、「障害者差別解消法」、「サポートのために」（注 発達障害の生徒をサポートする手立て）などである。受講生は特に「サポートするために」で語られた、思いもかけない様々な手立てに感銘を受けていた。発達障害を理解することなしには決して思いつかない教育的サポートの数々であった。

（3）教育時事問題

○活動のねらいおよび実際

従来は、教育時事問題のテーマのみを示して、調査させ発表させていた。しかし、テーマのみの提示では、調査した内容が不十分な場合があった。その反省を踏まえて、今年度は以下のように、具体的に調査・発表の方向性を示した。

【第1回目】 1. 君が代と日の丸－君が代と日の丸の取り扱いは教育現場では大きな問題でした。その歴史を概観し、国旗国歌法が制定されるまでの経緯を述べなさい。2. 教育基本法－教育基本法が改定されました。新旧を比較し、その改定理由を述べなさい。3. 教育委員会－教育委員会制度が改定されました。その歴史を概観し改定理由を述べなさい。【第2回目】 4. 学習指導要領－

学習指導要領の歴史とその役割を述べなさい。5. 教科書検定－教科書検定の歴史とその果たす役割について述べなさい。6. 学校という組織－学校の組織も時代と共に変容しています。その理由と課題について述べなさい。【第3回目】7. 学力テスト－学力テストに関わる歴史と、現在の学力テストが抱える課題について述べなさい。8. 多忙な教員－日本の教員は世界で最も多忙であると指摘されています。教員の置かれている現状と、今後のあるべき姿について述べなさい。9. 子どもの貧困と就学支援制度－「子どもの貧困」が問題視されています。その現状と日本の就学支援制度を諸外国と比較しながら述べなさい。10. いじめ－いじめ防止対策推進法が制定されるにいたった経緯を説明しなさい。11. 体罰－教育現場で体罰のニュースが絶えない実態があります。体罰と教育との関連について述べなさい。12. 不登校－不登校の実態とその対策について述べなさい。また、学校の役割について述べなさい。

○学生のレスポンスにふれて

特に調査方法を指示していないため、ネット検索をもとにした発表が殆どであり、一面的、表面的な把握にとどまるものが多かった。制度政策が関係するテーマでは、表向きの理由、当局の公式見解の羅列におわり、歴史的な背景、反対意見、施行結果としての得失に触れないものが殆どであった。そのため、補充の意味でのレクチャーやプリント資料を配付した。これにより更なる探求を始めた者もみられた。そもそも、とりあげたような、報道されるテーマ、長期的に繰り返し問題になるテーマでも、学生には届いていないことを実感させられた。日常的に社会の出来事に関心をもつきっかけとなることを期待したい。

(4) 道徳教育のワークショップ～情報モラル教育・いじめに関する事例についてディスカッション～

○活動のねらい及び実際

学校の道徳教育は、来年度から激動の時代を迎える。新学習指導要領について、小学校では平成30年4月からすでに道徳教育に関する部分（総則の一部と第3章）が施行され、中学校でも平成31年4月から施行されることになっている。これからの学校教員は、道徳科を要とした新しい道徳教育を実践していかなければならない。新しい道徳教育の課題は様々であるが、その中に情報モラル教育といじめ対策がある。

本時のねらいは、道徳教育の現代的課題（情報モラル・いじめ問題）に関わる事例について、グループで考えることであった。当日は、以上のような内容を確認した後、国立教育政策研究所の「情報モラル教育実践ガイダンス」を紹介し、本時の活動の流れについて簡単に確認して、授業を進めた。まず、いじめ問題にかかわる情報モラル教育に関する事例を提示し、学生が自分の考えをまとめる時間をとってからグループ討議に入った。討議の結果は、グループごとに発表し、クラス内で共有した。考察・討議は、個別指導と全体指導や、保護者との連携、全体計画などの具体に関わる問題に沿って行った。

○グループから出た学生の意見概要

- ・個別指導に留まらずに全体での指導をする重要性 など

(5) 保護者・地域対応のワークショップ～クレーム対応講義、校長・担任・保護者・観察者に分かれてロールプレイング～

○活動のねらいおよび実際

本時のねらいは、学校・教師に対するクレーム対応に関するロールプレイングを通して、保護者・地域対応の擬似的経験を行うことである。また事前に、学校と保護者または地域との関係についてのニュースを履修生自身で選定し、どのような問題や可能性があるか考察する課題を課した。当日は、まず事前課題の確認・共有を行ったのち、教育現場におけるクレーム対応の特徴・背景について確認し、事例に沿って3名ずつでグループロールプレイングを行った。保護者からのクレームに

関する2つの事例からどちらかを選び、それぞれ担任役・保護者役・観察者（記録係）に分かれて実施する。終了後、どのような気持ちで応答したか、相手方にどのような気持ちや本音を感じ取れたかなどを話し合った。履修生は、実際に見聞きした経験などを生かしてロールプレイを行い、事後の話し合いで「あのときどうすればよかったか」など、具体的な対応方法を吟味していた。ロールプレイングは保護者・地域対応の大変さを実感する機会になり、また、事前課題は学校・家庭・地域連携の重要性などを考える機会になった。

○学生のレポートより

・[コミュニティ・スクールに関する記事を読んで] これまでは、子どもたちと地域の人々との関わりは、時代の流れと共に薄れていたように思える。しかし、コミュニティ・スクールを積極的に導入することにより、子どもたちは地域の方々との交流が増え、学校も活気があふれるようになる。このように、地域と学校の相互関係が活発になることにより、地域の活性化も期待ができると思う。[略] 子どもたちの興味関心も地域に向けられることが期待される。

（6）食育関連模擬授業～学校給食をめぐる諸課題～

○活動のねらいおよび実際

学校における食育を進めるためには、食に関する指導の基本的な考え方、指導方針等を明確にし、教職員の共通理解を図り、学校の教育活動全体を通して行われることが必要とされている。そこでテーマを「給食の時間の指導について」とし、自校式による給食運営を行っている学校の給食時間の実態およびその対応を含め、栄養教諭から教職員に向けて、「給食の時間」の指導について説明と協議の申し入れがあり、学内研修会が行われる、という設定で実施した。事前の取り組みとして、栄養教諭役は、2グループに分かれ、給食時間の問題の設定および、説明内容を30分程度でまとめ、学級担任役は、どのように給食の時間を指導するか考えてくることとした。

児童・生徒を対象とした模擬授業ではなく、教員間での協議であったため、「食育」を様々な視点から理解し、考える機会につながった。食に関する指導が重要なことは理解・共感できても、指導時間の確保と指導内容の充実は容易ではないことを感想に挙げる学生が多かった。

○学生のレポートより

[栄養教諭役]

- ・人に伝える難しさを感じました。先生方が、何に困っているのかなどをしっかりと把握し、こちらの要望を分かりやすく簡潔に伝えていきたいと思います。
- ・食育と教育の結びつきについてまだ世間にはそこまで浸透していないのではないかと思います。食育に携わる栄養教諭を目指すものとして食育は教育に位置付けてよいのかを自分自身、改めて考える必要があると思いました。

[学級担任役]

- ・日々繰り返される給食活動の中で様々な教育の要素が含まれている給食時間を上手く活用できれば良いと思った。
- ・教科授業とは違う難しさを感じた。食に関する指導についてより関心が高まったが、本当に、自分のクラスを持ったときここまで手が回るのかなという不安も感じた。

（7）英語関連模擬授業

○活動のねらいおよび実際

2020年より、小学校3・4年生で週1コマ、5・6年生で2コマが完全実施される。これに関しては、国民の関心も高い。英語教師を目指す6名を2組に分け、1組には「英語が小学校で教えられる意義」を保護者に説明するという課題を与えた。もう1組には、実際に授業を行わせた。その後、小学校で英語を教えることの是非について討議した。

- ・容認する意見
 - ・グローバル社会に対応するために早期英語教育は必須である。
 - ・アジア諸国はすでに早期英語教育を開始し、効果を挙げている。
 - ・語学教育は早期にやればやるほど効果的である。
 - ・日本語への影響はほとんどない。
- ・慎重派の意見
 - ・他の教科の時間を削ってまで、英語を取り入れる必要はない。
 - ・日本語での訓練が優先されるべきである。
 - ・小学校で英語を教える体制が、人的にも財政的にも不十分である。
 - ・体制が不十分の中で見切り発車すると、家庭間格差が助長される。

(8) 学級づくり関連模擬授業

○活動のねらいおよび実際

教員の行う学級経営を象徴する重要な場面として、新学年最初の「学級開き」に着目して、この時間を構想し、約10分間のマイクロティーチングを課した。校種・学年・クラスサイズ・地域実態などは自由に想定し、設定と構想の全体像が判る概案を配布して、10分間に臨む。他の学生は児童・生徒役として行動する。実施後に教員役のコメント、生徒役からのコメント、学校現場経験の長い担当者による学級経営のポイント概説を加えて終了。

○学生のレポートから

- ・いままで体験した先生方の学級開きを思い出したり、ネットや本で調べたものの、実際に自分が教師側として考えるのは大変で時間がかかった。どんなクラス、どんな1年…を、どんなことをどう伝えるか、ひとつひとつの言葉が目的・意図をもつことを改めて感じ、出会ってきた先生方はすごいと思った。
- ・先生役をやってみて、活動前の説明を噛み砕いてできなかった。活動前の説明を生徒が理解できるように噛み砕いて説明することが大切だということがわかった。活動内容を理解できないまま入ってしまうと、スムーズに行えない場合がある。そうならないために説明の仕方を工夫しなければいけない。
- ・生徒役をやってわかったこと、確信を持った発言で授業展開してくれる先生が安心できることがわかった。
- ・全体的に話す一文が長いから、より短く的確に話せるようになる必要があると思った。人前で話すことに早く慣れたい！

(9) まとめ「私の目指す教師像」

○活動のねらいおよび実際

学生に課した課題とその意図はつぎの通り。「4年間の教職科目履修の最後でもあるこの時間は、『わたしの目指す教師像』を描き、発表することでまとめとします。／この4年間（それ以前があっても、もちろん構いません）に、学び考えたことのすべてを踏まえて、『わたしの目指す教師像』を描いてください。／A 4版1枚に記述したものを配布し、それをもとに3分程度の発表ができるように準備します（pp等の使用可）。／当日は全員で共有し、今後の探求の出発点にします。／卒業研究とは別の（教職を選ばなかった人にはない）、4年間の集大成ですから、卒後の第一歩をキメるものを期待しています。」

当日は3分間の発表と若干の質疑等ののち、各自がコメントを付箋紙に書き、全員のコメントが発表者ごとに集まるようにして、履修者全員の疑似討議が実現することを目指した。

○学生のレポートから

学生が挙げる「目指す教師像」は、「専門性」「向上心」「児童生徒に寄り添う・見守る・ともに考える」「児童生徒と真剣に向き合う」「親身になれる」「連携できる」「考えさせる」「児童の目標となる」「柔軟に対応できる」などだが、少数ながら「(児童生徒が) 家族に話したくなる(授業をする)」 「(授業でわかる) 喜びを伝えられる」「聞き上手な」「きちんとあいさつができる」が挙がり他の学生のコメントに称賛されていたのは、特筆に値しよう。

3 反省と課題

「実践」の語に込められているのは、本演習の場合、座学として学んできたものと学校現場の現実との隔絶を少しでも橋渡しする意味あいであろう。換言すれば本演習は、「知らなかった」では困るであろうことどもを体験的に整理する機会のひとつである。本年度もかかる視点から、最終学年対象に短時間での試みを続けているが、浮かんできた点に触れておきたい。

先に述べた隔絶を埋めるために有効なのは、学ぶべき知識というより、ふだんの生活の過程で主体的な注意と関心により育つセンスである。よって、本演習に先立つ過程の充実が要るのではないか。例えば(3)教育時事問題との絡みでいえば、飛び交うニュースを教育との関連でマークする意識であり、模擬授業との絡みでいえばコミュニケーションの基礎、伝える技術である。これらセンスや技を育てる科目は本学の開講科目名からは消えて久しい。

そしてまたこれらは、教職を離れていわゆる一般就職にも有効な、いわば生活技術のひとつを構成する事項でもあることは、示唆的であると言えはしまいか。